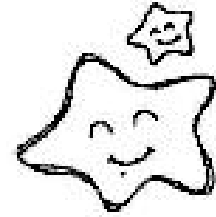


# QSK にぬふあぶし

No.301

ね  
子の方向の星



## 『ルンルンはえばるフェスタ』に参加しました!

就労支援事業所『てるしのワークセンター』では、2月5日と6日の両日、南風原商工会の主催する「ルンルンはえばるフェスタ」に参加してきました。イオン南風原ショッピングセンターに会場を借りた今回の催しでは、商工会に会員として参加する15の事業所がそれぞれに彩り豊かなブースを作り、南風原の一押し良品とご当地グルメとを大集合させました。

てるしでは今回、紅型染めを活用した雑貨商品のお披露目などもあって、用意していた在庫がほとんどなくなるなど、想像していた以上にいい感触を得ることができたと思います。また、パンもいつもどおりの売れ行きで、通りがかりのお客様が「てるしのパンあるさー」と足を止めてくれたときなどは、地域での“てるしのパン”の定着ぶりに、私たち自身も嬉しい驚きをもらいました。



## 宜野湾市支援センターはぴわん“ピアサポート相談”のご紹介

みなさまはじめまして、つかぼんと言います。

宜野湾市にある支援センター「はぴわん」で、ピアサポーターをしています。普段のピアサポート活動で私は、電話相談や来所相談、来客者へのお茶出しなどをしています。

『ピア』 = 仲間、対等。

当事者と同じ目線で寄り添い話を聞き、相談者の方から、『今日はどうもありがとうございます。気分が楽になりました。またお話しがしたいです』とお言葉をいただいたとき、自然と自分までメンタルの状態が軽くなり、清々しい思いをしたのを覚えています。

また、最近あったピアサポーター養成研修で、ピアをするうえでの心構え、体調管理をするうえでの道具箱(「元気回復行動プラン WRAP」)、自分の体調が悪くなったとき、逆に周りにどうして欲しいか準備をしておくこと(クライシスの時の対処法)などを学びました。

ピアをしていくうえで、いちばん心の支えになったこと。それは、ピアサポーター同士でもピアサポートをし合うということ。サポーターの中には様々な方がいます。それぞれの個性のある意見が、今のメンタルの支えとなっています。

私には、統合失調症の感情障害があります。しかし、回復してきている今だからこそ、今後もピアサポート活動を続けていきたいと思っています。

少しでも、このメンタルの『重り』を抱えている方たちを

『想い』で軽くしていきたい。

ピアサポートが今後も様々な場面で広がっていったらなと願っています。



### 支援センターはぴわん【ピアサポート相談窓口】は・・・

曜日：月・水・金（祝日や年末年始を除きます）

時間：午前は10時～12時 / 午後は13時～15時

TEL：098-988-8151（来所相談の際にも、まずはお電話を）

住所：宜野湾市普天間1丁目3-6

**宜野湾市にお住まいの方は、ぜひご活用ください！**

# 家族会 探訪

## 【北中城村精神療養者家族会・設立準備会】

日時：毎月第1金曜日・午後2時～4時  
場所：北中城村社会福祉センター  
☎ 080-5098-8903 (谷川)

「妻の病気についてまったくなにもわからないから、知りたい気持ち」

谷川文男さんが家族会に参加しようと思ったそもそもの動機には、そんなふうなことがあったそうです。32年前、脳神経外科の病院で働いていた妻が、前触れもなく精神の病を発症しました。

わからないから知りたいと思った谷川さんはたくさんの本を読み、また情報を得るため勉強会などにも積極的に足を運ぶようになりました。



有名な専門家が支援している集まりに参加したこともありましたが、大人数すぎて一人一人が話をする時間もなく、谷川さんとしては自分の求めているものとは違うと感じたそうです。病院の家族会にも顔を出していますが、お世話になっているその同じ病院に対する不満や疑問などは、どうしても口をはばかれる部分もあって、そこにはやはり少しの違和感がありました(谷川さんはそれでも、努めて言いたいことをはっきり言うほうでしたが)。

一方の地域家族会は病院や専門家がお膳立てしてくれることもないので、自分たちで主体的に動かなければなにも始まりません。話す相手も同じ家族なので、病院家族会などに比べると専門的なアドバイスがもらえるわけでもなく、抱えている問題がその場で解決されるということも正直あまりないかも知れません。基本的にできることは、話を聞くことと、話を聞いてもらうことだけです。谷川さんが、自分たちの住む北中城村で新しく始めようとしているのは、そういう地域家族会です。

谷川さんのお話を聞いて、「わからない」がキーワードとして心に残りました。

家族の病のことがわからない、どこに相談していいのかわからない、使える制度のことがよくわからない。専門家の先生はこう言うけれど、自分たちのケースには当てはまらないように感じるし、やっぱりそれぞれ違っていてわからない……。

立ち現れるそういう「わからなさ」のなかで、「わからなさ」を分かち合う場所としての家族会もあるかも知れません。(次のページへ)



(前のページから) 世の中がいま目指している“共生社会”とは、実は「わからない」ことを前提とした社会のことです。理解できることや共感できることを条件として一緒に暮らすわけではなく、わからない存在であっても共にあることが共生です(理解や共感にあまり価値を置いてしまうと、結局は同調圧力や排除が生じるのではないのでしょうか)。

けれども社会はむしろ、ますます端的でクリアカットな物語ばかりを要請しているように感じるし、「わからなさ」を受容することに誰もが不慣れになってきているように思います。

わからないことに遭遇したときに、私たちはそこで大小の不安を感じるわけですが、地域家族会では平明な「専門知」ではなく、経験と思いをもち寄ってこれを共有します。個人的に、谷川さんは論理的で合理主義的な印象もある人なのですが(奥さんの状態について、処方薬やその時々体調などを記録している20年以上に及ぶ詳細なグラフは、見せてもらえば誰もが驚くはずです)、けれど家族会に求めているものはもっと情緒的・有機的なものであるようにも感じました。

聞くことと聞いてもらうことを通して、わからなさについてわかり合う、いまそんな時間が私たちを少し安心させてくれるようです。

北中城村精神療養者家族会はまだ設立準備会の段階ですが、毎月第1金曜日には「家族の集い」を始めていて、正会員・賛助会員とも現在、絶賛募集中です。「家族会ってよくわからないなあ」という方も、ぜひ遊びにきてみてください。(増山)

## 家族による家族学習会 担当者養成研修のお知らせ

みんなねつと主催

【担当者養成研修(オンライン)】 日時：3月22日(火) 10:00~16:30

対象：家族学習会もしくは家族学習会セミナーに参加した経験のある方

参加費：2,000円(テキストを持っている方は680円)

申し込み締め切り：3月13日(日)

お申込みは右のQRコードから。

または沖福連のホームページでも案内しています。

(<http://okifukuren.org>)



## 映画『夜明け前のうた 消された沖縄の障害者』

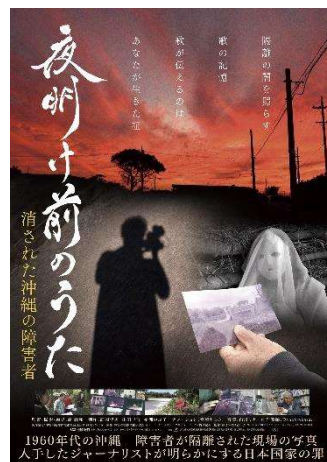
# 上映中止を問う なぜ隠すのか

映画『夜明け前のうた 消された沖縄の障害者』（2021年3月公開／原義和監督）が、数か所で上映中止となっています。

去年12月1日（水）に予定されていた沖縄市主催の上映会も中止になりました。文化庁が、映画賞を授与しながらも、映画に登場する精神障害者の家族から苦情を受け、記念上映を取りやめたことに端を発しています。



文化庁のこの判断は、国民の知る権利と映画製作者の表現の自由を奪い、さらには精神障害者の私宅監置という歴史を隠すことにもつながるものと考えます。



来る3月12日（土）、この映画の自主上映を行います。沖縄市の上映中止判断は適切だったのか。私宅監置制度とは何だったのか。あらためて世に問い、視聴者にご判断頂きたいと考えるからです。

### 3月12日（土） 13:15 開映（12:30 開場）/15:00 より 言論フォーラム

言論フォーラムのみのご参加もできます（16:30 終了予定）

### 会場：沖縄市老人福祉センター かりゆし園

沖縄市知花 6-36-17 TEL 098(938)1250

### 入場無料

メール [info@espace-sarou.co.jp](mailto:info@espace-sarou.co.jp) にて予約受付中

予約なしでも当日先着順で受付します（会場定員 70 名まで）

※コロナウィルス感染予防のため、入場人数が制限されています。

【言論フォーラム登壇予定者】 ※順不同・敬称略

大城 美代子（沖縄YWCA）

仲里 効（批評家）

高橋 年男（沖縄県精神保健福祉会）

原 義和（映画『夜明け前のうた 消された沖縄の障害者』監督・ジャーナリスト）

【司会】宮城 さつき（フリーアナウンサー／映画『夜明け前のうた』ナレーション）



本作は「UDCast®」（バリアフリー字幕／音声ガイド）に対応しています。

本作は障害のある方にも、ご覧頂くことができます。スマホ等の画面を点灯させてご覧になる際には、後方の座席にご着席下さい。

主催：監督 原 義和／新日本映画社 共催：沖縄県精神保健福祉会連合会（沖福連）

お問合せ：沖福連（担当：高橋 山田）TEL：098(889)4011 [terushino@castle.ocn.ne.jp](mailto:terushino@castle.ocn.ne.jp)

# 「チバリヨー！ 沖縄 コロナ禍を超えて」 報告



## 2021年度 障がい者の働く場パワーアップフォーラム ライブストリーム in 沖縄

障がいのある人たちの働く場の活性化を目指すパワーアップフォーラムは、ヤマト福祉財団の主催で2018年度より3か年計画で始まりました。ただ、3年目にもともと予定していたイベントはコロナの影響で延期となり、それでもこの逆境をどう進んでいくのかということを模索して、今回のインターネット・ライブ配信が実現しました。

障がい者の働く場の状況や、これまでの取り組み報告とともに、新たに展開した“働きたいとビジネスのマッチング情報局”『ゆいジョブ!』の紹介などを行なっています。詳しくは、『ゆいジョブ!』のホームページ (<https://yuijob.com/>) もご確認ください! (てるしの・知念)



イベントの動画は、上のQRコードからもご覧いただけます。



### ◎編集後記◎

ベトナム出身の禅僧ティクナットハンさんが1月に亡くなりました。身近なところでは、氏の活動によってマインドフルネス瞑想が世界的に普及しました。個人的にも、氏の存在が動機のひとつとなってベトナム旅行をしたことがあります。いろんな意味で熱い街でした。(増山)

編集：公益社団法人 沖縄県精神保健福祉会連合会  
会長 山田 圭吾  
〒901-1104  
沖縄県島尻郡南風原町字宮平 206-1  
てるしのワークセンター内  
電話 098-889-4011 FAX098-888-5655  
E-mail [terushino@castle.ocn.ne.jp](mailto:terushino@castle.ocn.ne.jp)  
発行：九州障害者定期刊行物協会  
〒812-0044  
福岡市博多区千代 4-29-24 三原第3ビル 3F  
電話 092-753-9722 FAX092-753-9723  
定価：10円(会費に含まれる)